

(算数科)

**基礎基本の定着を図り、確かな学力の向上を目指す  
～学ぶ楽しさを知り、自ら主体的に学ぼうとする子の育成～**

大阪市立南津守小学校 研修部

## 1. 研究主題設定の理由

2022年度より研究教科を算数として取り組み始め、今年度3年目を迎える。研究主題は「基礎基本の定着を図り、確かな学力の向上を目指す」である。学力面の課題が大きい本校の実態を踏まえ、基礎や基本をしっかりと定着させることを大きな目標に取り組んできた。

## 2. 研究の趣旨

基礎基本の定着を図る上で、2022年度からは「分かる喜びを知り、自ら主体的に学ぼうとする子の育成」を副主題として取り組んできた。「学力の向上」と「主体的に学ぶ子の育成」を中心として取り組んできた結果、「学力向上」の面では、経年調査における算数科の平均正答率の対全国比の差が少しずつ縮まってきた。

しかし、校内における生活・学習アンケートでは、「主体的に学ぼう」とする面で、肯定的な回答が増えているとは言えず、特に高学年においては減少傾向が大きくなっている。

そこで、2024年度からは、これまでの「分かる喜び」から「学ぶ楽しさ」に変え、「学んで楽しい」「分かるって楽しい」と思えるような授業になるよう、研究を進めていくことになった。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

### 視点①指導と評価の一体化

- 単元ごとに全時間の評価計画を作成する。
- 児童が達成できたかどうかを毎時間確認すること。

### 視点② 主体的な学びにつながるような授業デザイン

- 児童間の学び合いや問題との出会い方
- ICTの活用法
- 予習や復習と授業のつながり
- 各学年の実態に応じた主体的な学びにつながる工夫や仕掛けを行うこと

### 視点③ 計算タイムや自主学習のあり方

- 自主学習の内容の強化
  - ・月～金は教科学習
  - ・算数科を中心に復習の定着
  - ・学年に応じた取組
- 計算タイムの工夫
  - ・ICTの活用
- 学力向上にも、楽しみにもつながるような取り組み方や内容を精査して取り組む

## 4. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

今年度、重点的に取り組んできた「主体的な学びにつながる授業デザイン」をするためのしかけである、「問題場面の設定」「学習者用端末の効果的な活用」「3色カード」など、各学年の実態に合わせたしかけにより、児童はこれまでより学習に主体的に取り組み、学ぶことを楽しむ姿が見られた。

校内の生活・学習アンケートを毎年6月と12月に行うが、例年、12月の結果は6月の結果よりも下がる傾向にあった。しかし今年度においては、授業に関する項目で減少傾向が少なくなっている。特に「授業は楽しいですか」の項目では、ほとんどの学年が6月よりも向上させる結果となった。

### (2) 今後の課題

課題としては次の2点を挙げる。

1つ目は「学習者用端末の操作における習熟差」である。同じ時間をかけて、同じように教えても、どうしても差が出てしまう。差があまり関係なく取り組める学びについて探究していきたい。

2つ目は「主体的な学びへとつながるしかけ」である。単元によっても異なると思うが、児童が主体的に学びに取り組める環境、授業づくりを今後どのように発展していくのかを研修し続けたい。

校内だけでなく他校での取り組みを参観させていただいたり、学び合いを専門にされている方を講師にお呼びしての研修を行ったりすることで南津守小学校の学びを深めていく。またインプットした内容を授業でアウトプットし、児童の学びもインプットからアウトプットになるような授業づくりをめざしていきたい。